

2017年度 APT 研修

Development of Practical Problem-solving Skills : Network Construction for E-application in Regional Community to Bridge the Digital Divide

一般財団法人日本ITU協会 国際協力部

一般財団法人日本ITU協会では、2017年12月4日から15日までの約2週間にわたり、東京都内でAPT*研修“Development of Practical Problem-solving Skills : Network Construction for E-application in Regional Community to Bridge the Digital Divide”を実施した。この研修は、「APT特別拠出金による人材育成プログラム」の一環として募集が行われ、これに応募し採択されたものである。当協会にとって、APT研修は2010年の宇宙通信研修以来、7年ぶりの実施であった。本研修は、新宿駅南口の貸会議室を会場として実施し、研修員は会場に隣接する新宿サンルートプラザ新宿に宿泊した。

今回の研修には、アフガニスタン、ブータン、カンボジア、中国、モンゴル、スリランカ、トンガ、バヌアツ、ベトナムの9か国から1名ずつ9名の研修員が参加した(写真1)。

本研修では、研修員が、自国の都市部と過疎地のコミュニティとの情報格差に起因して生じる様々な問題を解決するために、現状分析から解決策の策定、そして、問題解決のための通信ネットワークの概要設計に至るまでの一連の能力を身につけることを目標とした。研修員が、自国の課題を把握し、その課題に対する解決策を提案できる能力に加えて提示された策を評価できる能力まで身につけることを可能とするために、本研修では、座講で講師の話を聞くだけでなく、全ての科目において、研修員が実技とプレゼンテーションを行いながら、実習を通して能力を身につけるといった方式を採用した。このような実地演習型の研

修であることが、本研修の大きな特徴である。

研修員には、自国におけるデジタルデバイドの原因となっている課題を認識させるために、来日前に自国のICT環境の現状と課題を提出させ、講義に先立って、カントリーレポートとともに全員がプレゼンテーションを行った。発表及び発表後の他研修員や講師との議論を通じて、発表者が自国の課題に関する理解をさらに深めるとともに、参加者全員が他国の実情に関する共通理解を持つことを目指した。なお、研修員からのプレゼンテーションの前に、日本のカントリーレポートも兼ねて、当協会の田中専務理事より、日本のテレコム事情についての概説を行った。

本研修では、2週間という短い期間の中で、「PCM」(Project Cycle Management)と「ネットワーク構築」の2科目に焦点を当てて習得をめざした。

PCMは、問題解決のために、まず問題を分析する手法である。この講義を通じて、研修員の各国における情報格差に起因する問題を解決するために必要な課題の汎用的かつ実践的抽出手法の習得を目指すとともに、グループ討論による、研修員間での知識レベルの共有を図った(写真2)。さらに、PCMに関する演習を、研修の最後のアクションプラン(自国の課題解決策)作成の前に実施し、研修員同士の討論を通して自国のICTに関する課題解決方法の策定等について各自が整理できる機会を与えた。

ネットワーク構築では、伝送や電波伝搬等に関する基礎知識を前提として、6つのモデルエリアについて事例研究を



■写真1. 開会式における全体写真



■写真2. PCM演習のようす

* The Asia-Pacific Telecommunity : アジア太平洋電気通信共同体



■表. ネットワーク構築演習に用いた6つのモデルエリア

地域	特徴
A	山岳地域に村が点在している
B	川に沿って小さな町が並んでいる
C	町、町から離れた村、その村からさらに離れた小さな町を結ぶ
D	海岸線を走る道路に沿って町が並んでいる
E	沿岸地域に島が点在している
F	砂漠地域に小さな村が点在している



■写真3. ネットワーク構築演習のようす



■写真4. 長野JRC訪問

行った(表、写真3)。研修員は、6つのモデルエリア全てについて通信網の設計・立案の演習を行った。その結果を発表し、講師を交えての検討・討議を行うことで、デジタルデバイド解消に向けた各国地域のためのネットワーク構築の基礎手法を身につけ、その後のアクションプランに利用できる応用力を習得するとともに、帰国後にもここで学んだ技術・知識が自国での様々な問題解決に適用できることを目指した。

こうして実習を通してPCMとネットワーク構築の基本手法を身につけた後、研修員が予め用意した自国で情報格差に係る課題をかかえる地域について、実際にPCMとネットワーク構築手法を適用して、当該地域の問題解決する具体策を

策定し、アクションプランとして発表できるようにまとめた。

研修の最終日には、各研修員によるアクションプランの発表を行った。アクションプランは、研修員各自の自国の問題を解決する通信ネットワークを、PCMとネットワーク構築の手法等を用いて設計・構築したもので、各国独自の問題を解決する提案について活発な議論が行われた。こうした討論と講師の指導を通じて、作成したアクションプランをブラッシュアップし、成果物として自国に持ち帰るとともに研修員間で共有した。これらにより、研修員は、汎用的な問題解決手法を学ぶとともに、解決策の作成プロセスを通じた実践的な課題解決力を身につけることができた。

教室内での講義・実習に加えて施設見学として、期間中の1日、日本無線株式会社の長野の工場を訪れ、災害対策用のポータブルLTEのデモンストレーション等を視察、体験した(写真4)。工場訪問に先立って、同じ日の午前中に長野の善光寺に立ち寄り、地元のボランティアの英語ガイドから善光寺について詳細な説明を受けた(写真5)。早朝出発のバスツアーとなったが、研修員には、自らの目で確認しながら日本の最先端技術に関する知見を得るとともに、日本文化への理解を深めることができる機会となった。

本研修を、今後、より満足の得られる研修としていくために、研修終了時に研修員より講義内容、テキスト及び施設見学に対する評価、意見ならびに要望等を聴取した。これらの評価結果を分析、検討し、コース実施上の改善点を明らかにすることで、次年度以降のプログラムの改善に役立てていきたいと考えている。

最後になりましたが、研修の実施にあたり御指導・御協力をいただきましたAPT及び総務省の皆様、講義資料の作成や研修員の指導に御尽力いただいた講師の皆様、長時間の御対応いただいた見学先の皆様に心より御礼申し上げます。



■写真5. 善光寺講堂参拝